

2025年8月 (No.434)

主な内容とページ

暗雲漂う半導体市況	1
DRAM は好調持続、NAND が続落	2
半導体貿易も停滞	3
半導体輸入小国の無謀な関税政策	4
半導体関税、様子をみよう	5
世界半導体企業 42 社、第 2 四半期業績結果	7
半導体産業への米政府の積極介入と懸念	11
時代の流れと変化(SRL だより)	13

暗雲漂う半導体市況

世界の半導体市況に暗雲が漂っている。AI 景気は続行だが、無定見なトランプ関税が影を落としている。

1. 世界の半導体市場は AI 景気にけん引され好調を持続。ただし、今年後半はトランプ関税の影響で、スマートフォン(スマホ)、自動車向けなどの需要に変調が波及しそうだ。
2. 半導体貿易への関税適用が迫っており、詳細は不明だが、中国向け輸出規制の先端半導体を輸出関税の納入で認可といった前代未聞の措置が取られる可能性がある。
3. 半導体への課税は、米国が輸入小国および輸出小国の実情から直接的な影響は軽微とみられるが、最終消費財のスマホ、自動車などへの影響が波及することが懸念される。

時代の流れと変化

時代の流れと変化を感じさせる事例が内外問わず目立つ。米国と日本の関税交渉では、訪米したわが国担当大臣にトランプ大統領自らが面談、そして合意。外交は段階を追って利害を煮詰めるいわゆる根回しを経て最後は首脳同士が握手という形式を飛び越し、一気にまとまってしまった。

やたらに形式ばり何段階も協議を経て形式上はまとまったかのようなやり方が「外交辞令」ともいわれるが、SNSの普及によって短刀直入、即断即決で物事が進められる。ただし、合意内容を巡って誤解、再確認などが増え、始末が大変な面も露呈。良し悪し両面が付きものだ。

もはや「大本営発表」の昔ながらのマスコミ操作や依存は威力がなく、すべてが混沌、目先の利益が最優先され、心地よい情報、施策が好まれる時代。伝染病、戦争、インフレ、貧困、飢餓等厳しい現実直面、ポピュリズム(大衆迎合主義)がはびこっている。いやな時代だが、変化を経てよりましな時代が到来することを期待。

(大竹 修)

本誌の内容一覧、索引は、SRL ホームページをご利用ください。

<http://www.semiconresearch.co.jp/>

この資料の複写、複製その他電子的な方法等によるいかなる形での複写利用をお断りします。但しオンライン法人契約を除きます。
この資料は公開されている文書および、社会的に信用ある企業、団体等の責任者によって公開された情報を SRL の解釈と分析で表現したものです。 2025 年 著作権所有 株式会社 SRL

SRL Monthly Report

2025 年 8 月(毎月 1 回発行)第 36 巻 8 号(通巻 434 号)

発行元: 株式会社 SRL

〒187-0011 東京都小平市鈴木町 2-865-67

TEL 042(318)7729

編集・発行人/大竹 修

SRL Monthly Report

August 2025, No.434

Semicon Research Ltd.

2-865-67 Suzuki-Cho, Kodaira -City, Tokyo 187-0011 Japan

Publisher/Editor Osamu Ohtake

© (株)SRL 2025

個人利用購読料金 1 年分 12 号 107,800 円(税込み)